



参加者の笑顔があふれる「ふれあいタイム」

山梨県では、毎年5月に県内全ての高校が一堂に会して行う総合体育大会を開催している。そこで、特別支援学校でも学校教育の一環として障害種を超えてスポーツを楽しむ機会を持つと、昭和60年に特別支援学校の体育教員が核となって第1回特別支援学校スポーツ大会を開催し、本年度32回目を迎えた。

実施種目は、陸上競技のトラックの部として50歳・100歳・400歳・1万歳走、学校対抗400歳リレー、車いす走(30歳、100歳)、フィールドの部として立ち幅跳び、走り幅跳び、ソフトボール投げ、シ

障害種超えた大会で交流の輪が広がる

ヤベリックスローを行っている。また、フライングディスク競技としてディスクスタンス、アキユラシーを行っている。

障害種を超えての大会のため、実施に当たってはそれぞれの実態に合わせた配慮をし、子どもたちが目標を持って取り組むことができる大会となるよう努力している。

また近年は、この大会が障害のある子ども同士や、地元の高校生との触れ合いの場となるよう、昼食後に全員でダンスをする「ふれあいタイム」を設けている。

本大会の開催には、各市町村や甲府ライオンズクラブからの経済的援助、開催会場のある市の陸上競技協会や地元の高校生ボランティアによる運営面での協力など、多くの方からの支援が必要であるが、そのことが障害者スポーツへの関心や理解を広めることにつながると考える。参加者が年々増加しているこの大会を、これからも育てていきたい。

(小松裕子・山梨県立ろう学校校長)